



根堀台だより

平成29年12月7日

第 81

校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

秋田県学習状況調査 1・2年生の学習の定着は



2年生の頑張る姿



1年生も真剣です



12月7日(木)、「平成29年度秋田県学習状況調査」が行われました。この調査は平成14年度に始まり、今回で16回目となります。文部科学省が毎年4月に実施している「全国学力学習状況調査」に先立ち、秋田県が単独で始めた事業であり、小学校では4・5・6年生、中学校では1・2年生を対象に実施しています。

この調査は学習指導要領で定めた学習内容の定着度を把握し、秋田県がこれまで取り組んできた「少人数学習」の成果や課題を捉え、学習指導の工夫改善を図ると共に、児童生徒の学力向上を目指すものです。「少人数学習」についてはすでに皆様ご承知のことと思いますが、少子化が進行する中、学級数をできるだけ減らさないで1学級当たりの児童生徒数を減らすことで手厚い指導を目指すものです。この調査は、全国の自治体でも注目を集めている本県のこの特色ある取組を検証改善する場でもあるのです。また、この調査問題の出題内容やその傾向は秋田県の高校入試にも反映されています。

なお、この調査結果については、各校から採点者を出して由利本荘市教育委員会のもとで採点・集計し、教科毎に担当者が成果と課題について話し合い、由利本荘市全体の取組を振り返ったり、各校の授業改善に生かしていくこととなります。

また、本校ではこれまで調査対象学年が履修した学習内容の定着が十分でない分野や内容については、授業だけでなく、YCSなどを利用して「回復学習」を実施し、成果を上げてきています。

「学力調査」というと、すぐに「学力神話」とか「序列化」など、批判的に捉える人たちも多いのですが、実施する以上は、この「秋田県学習状況調査」を、あくまでも「次の学びへの第一歩」として、これからの「子どもたちの学びに生かす」という視点で捉えていきたいものだと思います。

教科面談始めました 生徒と教師の絆を



短い時間でも充実した相談



待っている間も惜しみ勉強

12月6日(水)の放課後、本校の特色ある取組の一つである「教科面談」が始まりました。「教科面談」のスタートはやはり受験を控えた3年生からとなります。

9教科すべてで面談を行うため、一人一教科当たり2分間という短い時間ですが、事前に質問事項を教科担任に提出

出しているのです、すぐに本題に入って具体的なアドバイスを行いことができるようになっていきます。3年生になると子どもたちも手慣れたもので、教科毎に違う教室に素速く移動し、待ち時間も時間を惜しんで、真剣に勉強する姿が見られました。

また、どの教科の面談を見ても笑顔で話し合う光景が見られ、生徒と教師の間に共感的な人間関係が築かれていることを強く感じました。教師が子どもたち一人一人の学習上の悩みに向き合い、互いに解決の手立てを見付けていこうとすることで絆がさらに強くなっていくからかもしれません。この「教科面談」を生かしてさらに伸びていって欲しいものです。

教科面談を通して冬休みに自分がしないといけない部分がはっきりしました。また、教科毎にアドバイスされたことをこの冬に生かしていきたいです。(〇 〇 〇)

教科面談では先生に尋ねたこと以外のことも教えて下さり、今までの教科面談の中で最も有意義な時間だったと思います。受験も控えていて、自分に合う勉強方法をひたすら考えていたけど、先生との面談で色々な欠点が見付かったのでその欠点を補いつつ、自分の長所を伸ばせるように学習していきたいです。(〇〇 〇〇)

今日の教科面談はとても有意義だったと思います。今まで自分が分からなかったことが解決したり、自分が気付かなかったことを違う視点から見て、教えて貰って本当に勉強になりました。次は自分で質問の機会を作りたいです。(〇〇〇〇〇)

自分の分からないところを改めて教えて下さり、ポイントや勉強の仕方など参考にしていこうと思った。入試まであと少しだから今日質問したところも含めて苦手を無くすように頑張りたい。(〇〇 〇〇)

冬休みにしといたほうが良い勉強方法や自分の苦手な所をどう覚えるか、どう解くかを教えてもらった。これを今後の勉強にいかしたいと思いました。(〇〇 〇〇)

自分が分からない所や不得意な所を直接教科担任の先生に聞いて説明してもらえて理解することができた。また、勉強の仕方や問題の解き方もおしえてもらったので、これからのテストや受験に活用していきたい。(〇〇〇〇〇)